

|        |                  |      |                 |     |         |           |
|--------|------------------|------|-----------------|-----|---------|-----------|
| 教科(科目) | 教科(科目名)          | 歴史総合 | 単位数             | 2単位 | 学年(コース) | 2学年(全コース) |
| 使用教科書  | 第一出版社『新歴史総合』     |      |                 |     |         |           |
| 副教材等   | 第一出版社『ダイアログ歴史総合』 |      | 第一出版社『新歴史総合ノート』 |     |         |           |

### 1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 2 指導の重点

- ① 近現代の世界の形成についてポイントとなる基礎的知識についての習得を目指します。
- ② 近現代の世界の形成に関わる諸指標(グラフ等)を読み取る基礎的な力の習得を目指します。
- ③ グラフ等から分かったことを考察できる力、文章や言葉で表現できる力の習得を目指します。
- ④ 映像資料を積極的に活用し、習得した知識や思考力をさらに伸ばそうとする態度の育成を目指します。

### 3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|--|--|
| ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |

### 4 評価方法

|      |   |   |  |
|------|---|---|--|
|      | 評価は次の観点から行います。  |   |  |
|      | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、<br>・ワークシート、提出物などの内容の確認<br>・定期考査や小テスト<br><br>などから評価します。                             | 以上の観点を踏まえ、<br>・ワークシート、提出物などの内容の確認<br>・定期考査や小テスト<br><br>などから評価します。 | 以上の観点を踏まえ、<br>・授業の態度や課題や発表への取り組みの観察<br>・ワークシート、提出物などの内容の確認<br><br>などから評価します。 |
|      | 内容のまとまりごとに、各観点<br>「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」<br>で評価します。<br>内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 |   |  |

## 5 学習計画

| 月 | 単元名  | 授業時数<br>と領域 | 教材名  | 学習活動(指導内容)   | 時間 | 評価方法  |
|---|--|-------------|--|--|----|---|
| 4 | 第2部 近現代の<br>世界と日本<br>第1章 近代化と<br>私たち近代化への<br>問い<br>第1節 18世紀の<br>アジアの繁栄 | 3           | 教科書<br>資料集<br>ワーク<br>ノート<br>(適宜)<br>映像資料<br>等を活用<br>する | (第2部 第1章 第1節)<br>・18世紀のアジアや日本の生産と流通, アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に, 18世紀のアジアの経済と社会を理解する。<br>・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し, アジア諸国とその他地域の動向の比較や関連付けを通して, 18世紀のアジア諸国の経済活動の特徴等を他面的・多角的に考察・表現する。 | 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul> |
| 5 | 第2節 工業化の<br>進展と国民国家の<br>建設   | 7           |  | (第2部 第1章 第2節・第3節)<br>・産業革命と交通・通信手段の革新, 中国の開港と日本の開国などを基に, 工業化と世界市場の形成を理解する。<br>・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向, 日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に, 立憲体制と国民国家の形成を理解する。                                       | 7  |   |
| 6 | 第3節 結び付く<br>世界と日本の開国   | 7           |  | ・産業革命や国民国家の形成, 中国の開港と日本の開国の背景や影響に着目して, 主題を設定し, アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し, 表現する。  | 7  |   |
| 7 | 第4節 帝国主義<br>とアジア諸国の変<br>容  | 7           |  | (第2部 第1章 第4節)<br>・列強の進出と植民地の形成, 日清・日露戦争などを基に, 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。<br>・帝国主義政策の背景やアジア・アフリカに与えた影響などに着目し, 主題を設定し, アジア諸国と他地域の動向の比較, 関連付けを通して, 帝国主義政策の特徴, 列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し, 表現する。    | 7  |   |
|   |  |             |  | (第2部 第1章 全体)<br>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。  |    |   |

|    |   |            |   |  |        |   |
|----|---|------------|---|--|--------|---|
| 8  | 近代化と現代的な諸課題<br>第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち<br>国際秩序の変化や大衆化への問い | 2          | 教科書<br>資料集<br>ワーク<br>ノート<br>(適宜)<br>映像資料<br>等を活用する  | (第2部 第2章 第1節)<br>・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を、大戦の展開、アジアや日本の経済成長、ソ連の成立やアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの台頭と国際連盟の成立をもとに理解する。<br>・大衆社会の形成と社会運動の広がり、政治参加や女性の地位向上、大量消費社会や文化の形成などから理解する。<br>・第一次世界大戦の推移、大戦後の世界の政治状況、文化の形成について、日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で、この時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。 | 2<br>7 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・提出課題<br>・小テスト<br>・定期考査 |
| 9  | 第1節 第一次世界大戦と大衆社会                                      | 7          |   | ・第一次世界大戦の推移、大戦後の世界の政治状況、文化の形成について、日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で、この時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。  | 1      |   |
| 10 | 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題<br>第2節 経済危機と第2次世界大戦               | 1<br>7     |   | (第2部 第2章 第2節)<br>・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などから国際協調体制の動揺を理解する。<br>・世界恐慌の発生による各国の対応と国際関係の変化について、日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で、この時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。   | 7      |   |
| 11 | 第3節<br>第二次世界大戦後の世界と日本<br><br>国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題      | 7<br><br>1 | (第2部 第2章 第3節)<br>・第二次世界大戦の展開から冷戦の成立、国際連合と国際経済体制、アジア・アフリカ地域の独立、日本国憲法の制定から国際社会の復帰までの動きを理解する。<br>・第二次世界大戦の推移と世界に与えた影響、戦後の国際秩序の形成について、日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で、この時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(第2部 第2章 全体)<br>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 | 7<br><br>1   |        |   |

|   |   |   |  |   |   |   |
|---|---|---|--|---|---|---|
|   | <p>12 第3章グローバル化と私たち<br/>第1節冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭</p> | 6 | <p>教科書<br/>資料集<br/>ワーク<br/>ノート<br/>(適宜)<br/>映像資料<br/>等を活用<br/>する</p> | <p>(第2部 第3章 第1節)<br/>・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国, 冷戦下の地域紛争, 先進国の政治の動向, 軍備拡張や核兵器の管理などを基に, 国際政治の変容を理解する。<br/>・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携, 計画経済と波及, 日本の高度経済成長などを基に, 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。<br/>・地域紛争の背景や影響, 冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して, 日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で, この時代の特徴を多面的・多角的に考察し, 表現する。<br/>・冷戦が各国経済に及ぼした影響, 地域連携の背景と影響, 日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して, 日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で, この時代の特徴を多面的・多角的に考察し, 表現する。</p>   | 6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul> |
| 1 | <p>第2節 世界秩序の変容と日本</p>                           | 8 |  | <p>(第2部 第3章 第2節)<br/>・石油危機, アジアの諸地域の経済発展, 市場開放と経済の自由化, 情報通信技術の発展などを基に, 市場経済の変容と課題を理解する。<br/>・冷戦の終結, 民主化の進展, 地域統合の拡大と変容, 地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に, 冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。<br/>・アジアの諸地域の経済発展の背景, 経済の自由化や技術革新の影響, 資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して, 日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で, この時代の特徴を多面的・多角的に考察し, 表現する。<br/>・冷戦の変容と終結の背景, 民主化や地域統合の背景と影響, 地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して, 日本と世界の動向を比較・関連付けをする中で, この時代の特徴を多面的・多角的に考察し, 表現する。</p> <p>(第2部 第3章 全体)<br/>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p> | 8 |   |

|        |                   |   |  |   |   |         |
|--------|-------------------|---|--|---|---|---------|
| 2<br>3 | 現代的な諸課題の<br>形成と展望 | 7 | 教科書<br>資料集<br>ワーク<br>ノート<br>(適宜)<br>映像資料<br>等を活用<br>する | (現代的な諸課題の形成と展望)<br>・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。<br>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。<br>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 | 7 | ・レポート作成 |
|--------|-------------------|---|--|---|---|---------|

計 70 時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

|                 |                       |                  |                  |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|
| 領域ごとの<br>授業時数合計 | A「話すこと・聞くこと」<br>25 時間 | B「書くこと」<br>30 時間 | C「読むこと」<br>15 時間 |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・ 授業内で使用しているプリントや授業ノートを、単元終了段階で提出してもらいます。
- ・ グループ学習などを実施した際に自分の意見などをまとめたレポートを提出してもらいます。
- ・

7 担当者からの一言

「歴史総合」は令和4年度入学生から始まる、新しい科目です。歴史総合では世界と日本の関連性を考えながら、なぜ現代世界の諸課題が発生しているのかを今から300年ぐらい前からの歴史から考察していくことを主眼にしています。近現代史の学習では、文字の資料だけでなく、風刺画やグラフ、また映像資料もたくさん残されていますし、歴史的出来事を踏まえたドラマやアニメもたくさんあります。この授業では、そういった資料にも触れながら、世界の問題点を自分事として考えてもらうことを目指しています。よろしくお願いします。  
(担当：大貫 康範)